

# 2026年5月31日(日)第555回・ホテルの現状と地域活動の告知

第555回放送 2024.05.28

## グラウンドワーク三島アクショントーク

ホテルの現状分析と地域コミュニティ活動の告知

### 源平川ホテル発生状況の分析

今年の累計飛翔数 (5/1-28) <b>679匹</b> 1日最大飛翔数：60匹	3年前の同時期比較 <b>3,653匹</b> 約2,500匹の大幅な減少
---	---

① 推測される原因：冬場の水不足、気温の変化、降雨のタイミングが影響。明確な特定のため専門家への相談を検討中。

② 明るい兆し：竹林整備を行った「中之島」エリアで新たに飛翔を確認。環境整備の成果が表れている。

ピーク時の  
**1/3**  
まで減少

「ホテルの復活は自然からの共有のプレゼント」  
— 観賞マナー遵守の呼びかけ

### 今後の地域活動・イベント

5.30 腰切お不動尊大祭 1633年から続く伝統行事。1999年にグラウンドワーク三島の協力で復活。紙芝居も実施。	「夢ごころ」田植え体験 午後1時半より梅田の田んぼにて。三島ブランド米の育成体験、参加費無料。
--	--

### トピックス・緊急課題

静岡県景観賞 最優秀賞 受賞  
境川清住緑地の維持管理活動を報告。建設会社の新人研修の場としても活用。

深刻な農業用水不足  
源平川・御殿川の水量が激減。下流の梅田・長伏地区まで水が届かない事態に。水はホテルと農業にとっての「命の水」であることを強調。

### アクションアイテム

11月に河合氏を台湾へ招待する @渡辺氏

次回の放送で台湾訪問の詳細を報告する @渡辺氏

第555回目を迎えた「グラウンドワーク三島・アクショントーク」では、渡辺豊博氏の誕生日や台湾訪問のエピソードを皮切りに、源兵衛川におけるホテルの発生状況を過去のデータと比較しながら詳細に分析しました。

さらに、2025年度・静岡県景観賞最優秀賞を受賞した境川・清住緑地の維持管理活動や、地域に根差した「腰切不動尊大祭」、三島産ブランド米「ゆめみしま」の田植え体験といった今後の活動についても告知が行われました。

## オープニングトーク：台湾帰国報告と渡辺氏の誕生日

番組は、NPO法人グラウンドワーク三島専務理事の渡辺豊博氏と岡本真由美氏による進行で、記念すべき第555回としてスタートしました。

渡辺氏は、連日35℃を超える灼熱の台湾から帰国したばかりであることを報告。続けて、自身の誕生日が5月28日であることに触れ、秋田県土崎町での幼少期に遡りました。

当時「トントロメンコ（かわいい豊博ちゃんの意）」と呼ばれていたエピソードから、戦時中にゼロ戦で亡くなった同名の息子を持つ土屋夫妻に預けられ、愛情深くも「ご飯一粒残したら叩かれる」ほど厳しく育てられたという、自身の規範と人格のルーツとなる物語を語りました。

また、40年近く「ショートスリーパー」を続けていることや、今後も周囲のサポートを得ながら番組を続けていく意欲を述べました。

## 源兵衛川のホタル発生状況：過去データとの比較と分析

5月28日付の静岡新聞に「三島・源兵衛川で蛍舞う」の新聞記事が掲載されたことを受け、今年のホテルの発生状況が詳しく報告されました。

5月1日から28日までの累計飛翔数は679匹、1日の最大飛翔数は60匹でした。しかし、この数字は過去のピーク時と比較すると大幅に減少しています。特に、累計で3,653匹、1日の最大飛翔数が225匹を記録した3年前（2023年と発言）のデータと比較すると、現在の飛翔数は、約3分の1に留まっています。

この2年間で約2,500匹減少したことになり、その原因として、冬場の水不足や気温、降雨のタイミングなどが推測されましたが、明確な特定には至っておらず、専門家への相談も検討されています。

一方で、以前はホテルがいなかった「水の苑緑地」の上流「中之島」では、竹林の整備後にホテルの飛翔が確認されるという嬉しい報告もありました。

## ホテル観賞の魅力とマナーの呼びかけ

ホテル観賞の魅力について、せせらぎの音が持つ癒し効果（人間の心臓の鼓動と同じヘルツであるため）や、水面に映る幻想的な光の美しさが語られました。

特に、三島駅のすぐ近くで、歩いて10分ほどの場所で、このような光景が見られるのは極めて貴重であると強調されました。

ホテルの復活は、環境改善活動に対する自然からの「共有のプレゼント」であるとし、来訪者には、ホテルに光を当てない、観察場所で騒がないといったマナーを守り、この美しい環境を大切にしながら楽しんでほしいとの呼びかけがありました。

また、10年間ホテルが見られなかった「ホテルの里」でも3匹の飛翔が確認され、川崎から訪れたリピーターもいたことから、目的を持って訪れる人がいることこそが「真の観光地」であるとの見解が示されました。

## グラウンドワーク三島の地域活動報告と告知

NPO 法人グラウンドワーク三島が関わる地域活動について、以下の報告と告知が行われました。

- **境川清住緑地の活動:**

2025 年度・静岡県景観賞最優秀賞を受賞した境川・清住緑地にて、施工を担当した加和太建設の新入社員（約 18 名）が研修の一環として維持管理活動に参加したことが報告されました。

- **腰切不動尊 大祭:**

5 月 30 日に、へそから下の病気に効くとされる「腰切不動尊」の大祭が開催されます。1633 年から続くこの祭りは一時期途絶えましたが、グラウンドワーク三島が関わり約 27 年前（1999 年）から継続されています。当日は田町のシャギリや龍滝寺の僧侶による法要のほか、祭りの復活の経緯を伝える紙芝居も行われます。

- **「夢ごこち」田植え体験:**

三島産のブランド米「ゆめみしま」の田植え体験が、6 月 6 日(土)午後 1 時半から梅名の田んぼで開催されます。参加費は無料で、泥遊びも楽しめるため、親子での参加が呼びかけられました。この米は源兵衛川の水を源とし、世界かんがい施設遺産に登録されています。

## 農業用水の現状と水資源の重要性

田植えの話題に続き、現在の農業用水不足に関する懸念が示されました。

今年は源兵衛川や御殿川、桜川の水量が少なく、特に下流に位置する梅名や長伏地区の田んぼまで水が十分に届いていない現状が説明されました。

上流の田んぼがスポンジのように水を吸収するため、地下水が満たされない限り下流まで水が流れてこないというメカニズムが解説され、水はホテルにとっても農業にとっても「命の水」とであると、その重要性が改めて訴えられました。